



朝日まちなみプラン

～歩き集えるくらしやすいまちづくり～朝日町東海道まちなみ整備計画 概要版



第1章 計画の趣旨

[計画策定の目的]

地域の歴史・文化・自然環境等の特性を活かした個性あふれるまちづくりを実施するため、古くからの町民だけでなく、転入者や来訪者等の視点を考慮して、東海道を軸とした町の活性化計画を示すものです。

[位置づけ] 朝日町総合計画後期基本計画 第4章「利便性のある調和のとれたまちづくり」

[対象地区] 東海道沿道地域

[計画期間] 平成30年度～平成39年度までの10年間

第2章 現状と課題

- 現状（裏面参照）
 - ・歴史的資源等…街道の面影を残す歴史的資源が見られ、複数の寺社が点在している
 - ・道路幅員状況…道路幅員は一律ではなく、5m程度の狭い道路が多く見られる
 - ・ゴミ置場…道路沿いにあり、収集箱の種類や収集箇所の数にばらつきがあり、統一されていない
- 交通量・走行速度調査の結果
 - ・国道1号線へ抜ける交通量が多い
 - ・平日、休日とも平均速度が30km/h以上
- 町民アンケート調査の結果
 - ・道路の利用しやすさについては、車、自転車あるいはオートバイ、歩く場合の全てにおいて「利用しづらい」が多い
 - ・みどころについては、「桜並木」、「古い社寺が残っている」などが多い
 - ・みち、まちづくりの希望については、「車のスピードが抑えられており、安全に歩行できる空間とする」が約6割
- 観光関連アンケート調査の結果
 - ・歴史に関する史跡をわかりやすく表示する
 - ・トイレや休憩できる場が必要
- 旧東海道まちなみ整備ワークショップ
 - ・地域のよいところについては、「祭り、社寺、桜」などが挙げられ、悪いところは、「道が狭い、暗い、空家、案内がない、休憩所がない」などが多い



課題 ①歴史的風致の保全・再生 ②風情ある旧家屋の維持 ③地域資源のネットワーク形成
④新旧住民の交流施設整備 ⑤交通安全対策

第3章 基本理念

[将来像] 『東海道の歴史と田舎のまちの風情が感じられる活気と住みやすさのあるまち』

目標1 東海道の歴史的風情を活かした朝日町らしさの創出（課題①～③に対応）

目標2 新旧住民や来訪者が交流するコミュニティを育む（課題④に対応）

目標3 生活者や歩行者にやさしいみちをつくる（課題⑤に対応）

第4章 整備方針

- 1 東海道の歴史を感じることができる広場を整備するとともに、街道沿道をはじめとして、歴史的趣きを残す建造物や社寺境内林などを活用しつつ、歴史的な風致を保全・再生することにより、特色と魅力のあるまちづくりを行う。（目標1に対応）
- 2 丘陵地の開発による新規住民と、地区内の住民が協働でみち、まちづくりを進めるなかで、新旧住民が交流を促進し、地域コミュニティのきずなを深めるための機会づくりと基盤となる拠点施設整備を行う。（目標2に対応）
- 3 東海道南側に位置する小学校への通学や、沿道の学童保育所などの利用、さらに東海道沿道の社寺仏閣、史跡、良好な眺望スポットなどの地域資源を巡る歩行者の安全性、快適性を確保する。（目標3に対応）

第5章 施策の展開

1. 昔ながらの建物の維持・活用（整備方針1に対応）

- ・古い建物を安全に維持し、継続的に地域に歴史的風情が感じられるように古い建物の維持を検討します。
- ・空家や古民家を利用し、飲食ができる場所やサークル活動の場など町の賑わいとしての活用を検討します。

2. 沿道の景観向上及び風景保全（整備方針1に対応）

- ・水路やゴミ置場等を改修し、景観の向上及び風景の保全を図ります。
- ・桜並木等を風景に沿った改修を行います。

3. 歴史的建造物や社寺仏閣のPR（整備方針1に対応）

- ・案内板や標識を整備し、歴史的資源を有効に案内できる環境を整備します。

4. 来訪者に配慮した整備（整備方針1に対応）

- ・歴史的資源や利用可能なトイレなどの情報を記載したパンフレットを作成し、来訪者が散策しやすい環境を整備します。
- ・東海道沿道に誰でも利用できるトイレの設置を検討します。

5. 住民参画の促進（整備方針2に対応）

- ・東海道の歴史や地域資源、東海道まちなみ整備に関する事などの情報を発信し、住民の関心を高め、東海道まちなみ整備への参画を促進します。

6. 新旧住民が交流できる環境の提供（整備方針2に対応）

- ・既存の施設や憩いのスペースとなる様な改修を行い、新旧住民が交流できる環境を整備します。

7. 歩行者の安全性の確保（整備方針3に対応）

- ・歩行空間と車両走行空間の区分を明確にし、かつ、歩行者が安心して歩けるスペースを確保することで、歩行者に安全な環境を整備します。
- ・景観に配慮した照明灯を配置し、夜間の歩行者の安全性を確保します。

8. 車両の走行速度低下及び交通量削減（整備方針3に対応）

- ・車両走行空間を狭めることにより、速度抑制及び交通量削減を図ります。
- ・車両走行空間の明確化や道路標識の拡充により、視覚的な速度抑制を図ります。

第6章 都市再生整備計画（案）（裏面参照）

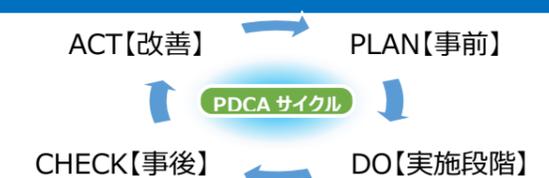
[基本的な考え方]

先行して本計画を進めるために、以下に示す4項目を考慮して都市再生整備計画(案)の事業を実施します。

- 1 住民との協働による継続的で自主的なまちづくり活動ができる事業
- 2 都市再生整備計画を策定する際の対象区域要件となる市街化区域内で行う事業
- 3 各種調査結果及びワークショップ・協議会等の中で関心度や重要性が高かった事業
- 4 事業完了後に事業効果が現れやすく、目に見えやすい事業

第7章 進行管理

本計画が効果的に、着実に実施されるよう、PDCAサイクルによる取り組み、定期的な見直し及び評価を随時実施していきます。





朝日まちなみプラン

～歩き集えるくらしやすいまちづくり～朝日町東海道まちなみ整備計画 概要版



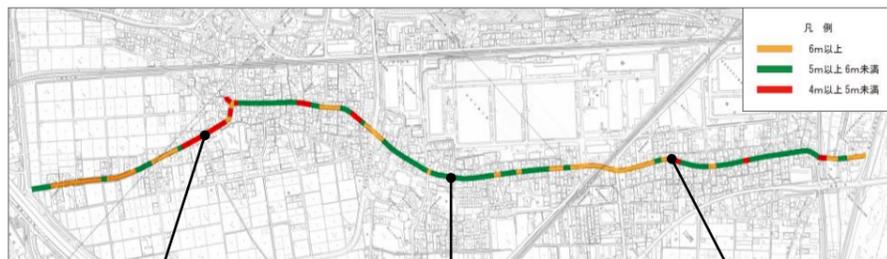
■現状

■歴史的資源等



東海道沿道では、街道の面影を残す常夜燈や一里塚跡などの歴史的資源が見られ、4箇所の寺院が建造されている他、八王子祭で有名な小向神社、善照寺、苗代神社、井後神社といった複数の寺社が点在しています。

■道路幅員状況



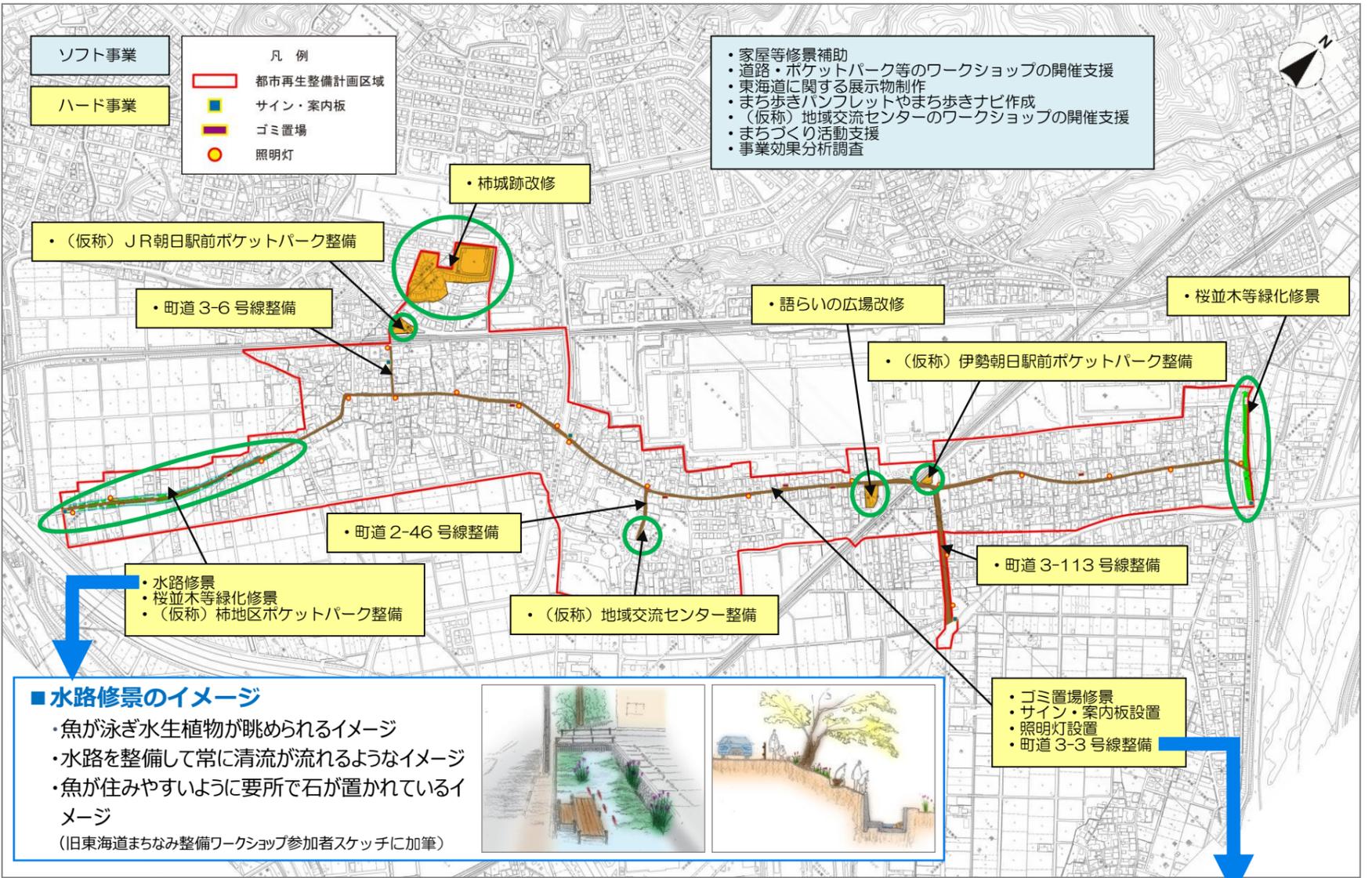
東海道の延長は約2.6kmであり、道路幅員は一律ではありませんが5m程度の狭い道路が多く見られます。歩車分離はされておらず、歩道は設置されていません。

■ゴミ置場



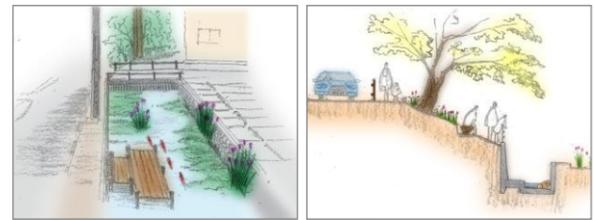
道路沿いにゴミ集積所がありますが、縄生、小向、柿で収集箱の種類や収集箇所の数にばらつきがあり、統一されていない状態です。

■事業概要図（都市再生整備計画（案））



■水路修景のイメージ

- ・魚が泳ぎ水生植物が眺められるイメージ
 - ・水路を整備して常に清流が流れるようなイメージ
 - ・魚が住みやすいように要所で石が置かれているイメージ
- (旧東海道まちなみ整備ワークショップ参加者スケッチに加筆)



■大正時代と現在の東海道 比較写真

朝日町は古くから東海道に面した町として栄えてきました。東海道は伊勢神宮へと向かう参宮街道としての側面もあり、古くから旅人などで賑わい、多くの物資や情報、文化が行き交う庶民の道、文化経済の道でもありました。

江戸時代、桑名宿と四日市宿とを結ぶ宿やまぐり茶屋があり、旅人たちで賑わいがありました。この東海道を歩く人との交流の中で、文化が培われ生活が営まれ、町の中心部として発展し、現在でも生活道路として地域の暮らしを支えています。



大正時代の東海道



現在の東海道



■町道 3-3 号線整備のイメージ



カラー舗装、スリット側溝整備により、車両走行速度の抑制と歩行スペースの明確化を図ります。

